

令和 7 年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第 3 回専門部会 議事要旨

日 時 令和 7 年 9 月 12 日（金） 15：30～17：00

場 所 岐阜市役所 6－1 大会議室

出席者	精神科医療機関	3 名
	訪問看護事業所	4 名
	関係団体・機関	9 名
	基幹相談支援サテライト	4 名
	相談支援事業所	14 名
	行政機関	10 名
	合計	44 名

○検討テーマ

精神障がい者が地域で安心して暮らすために

～精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの強化に向けて『普及啓発』～

「にも包括」の現在の取り組みの共有と今後協議していく「普及啓発」について、本人・家族及び地域のニーズ・希望や困りごと、地域課題について、地域づくりの視点で協議を行った。

1. はじめに

「にも包括」協議の場の目的及び考え方について

2. 岐阜市における精神保健の現状、今までの取り組みについて

（1）岐阜市における精神保健の現状について（資料 1）

（2）昨年開催した協議の場から今年度までの経過説明

- ・令和 7 年度の「地域連携」「普及啓発」の進め方と協議の場の位置づけについて。
- ・普及啓発の共通イメージは、精神疾患を誰もが自分自身の問題としてとらえることができ、行動変容につなげることができる。

3. グループワーク

目的： 普及啓発に関する困りごとの根本的な原因を考え、地域課題を整理するための情報を集約する

グループワークテーマ：

- ① 「日頃の活動で感じている、本人・家族、地域のニーズ、困りごと」について意見交換
- ② 「普及啓発」に関する「本人・家族及び地域のニーズ・希望や困りごと」に関する根本的な原因を検討（令和 5 年度の協議の場の意見、アンケート、医療機関へのヒヤリングなどで集めた「本人・家族及び地域のニーズ・希望や困りごと」も加え検討する。）

4. グループ発表

グループワークで話し合った「普及啓発」に関する「本人・家族及び地域のニーズ・希望や困りごと」（困りごと）に関する根本的な原因（原因）を発表する。（3 グループ）

<A グループ>

「普及啓発」の困りごと：家族が面倒を見るべきという考えが根強い

原因：障がいの原因が家族のせいだという声がある。精神疾患＝怖いというイメージがあり、家族が面倒を見るべきということに繋がっている。

「普及啓発」の困りごと：近隣住民からどのように言われているか不安に感じ、社会参加（自治会等への参加等）やコミュニケーションがうまくできない

原因：地域との繋がりが薄いため自治会等の参加ができない。地域での受け入れ体制が整っていないことや、参加を後押しする人がいない。もともと本人や家族のご近所付き合いが薄いため社会参加等が上手くいかない。過去のトラウマも影響している。

「普及啓発」の困りごと：（本人）働きたいけれど働けない。

原因：企業側の障がいに対する理解不足や就労の収入制限、本人の体調不良などがあり、意欲があるのに働けない。

<B グループ>

「普及啓発」の困りごと：自分の病気を理解してもらいたいと思う、一方で家族に精神障がいを持つ人がいることを知られたくない

原因：地域で精神疾患を理解してもらえる環境になったら知ってほしいという気持ちはある。地域課題として精神疾患は悪いイメージがあり、病気の本質が本人しかわからないため怖いイメージがある。また、精神疾患に関する情報がまだ少ない。症状が日によって変わることがあり、病気自体に難しさがある。精神疾患を持つ人は増えているが、精神疾患のことを理解してもらうハードルがまだ高い。

<C グループ>

「普及啓発」の困りごと：バイト先で手帳を持っていることを伝えたら働けなくなった

原因：障がいに対する偏見やメディアの影響で精神障がい者は怖いイメージがあり、手帳を持っている人にどういう対応をしたらいいのかわからない。

「普及啓発」の困りごと：（近隣住民）大声や夜間の徘徊等を見かけた時にどうすればいいのかわからない

原因：地域との繋がりが希薄で、異常行動を見かけた時に声をかけることはハードルが高い。また、教育の場で学びがない。知識だけではなく障がい者の方と触れ合う体験がないと、実際の行動に移すのは難しい。また、精神障がいに対する偏見が本人や家族にもあるため、障がいを認めたくないという思いが生まれる。

<家族会>（事前に意見収集した意見を紹介）

・家族に障がい者がいることは周りには言えない。話を聞いて助けてほしいと思っているが、

誰にも言えないということは家族自身が障がい者への偏見を持っていることだと思う。

- ・精神科の医師からも偏見を感じる。障がい者だからと決めつけられて、話をじっくり聞いてもらえないと感じている。

- ・行政の窓口や医療機関、介護などを担っている包括支援センターなど、精神障がい者の担当ではなくても、自分たちの暮らしの事を気にかけて聞いてほしい。

- ・高校生などの早い時期から自分自身の健康を含めて心の病気について正しい知識や情報を知ってほしい。

グループワークまとめ

- ・「困りごと」を出してもらい、その中で「普及啓発の困りごと」の根本的原因を考え、地域課題を整理するため協議を行った。現状を深く分析し、困りごとの本質を見極めつつ、今後「普及啓発」に関する目標を決めて考えていく土台とする。グループで出た意見や GW シートをもとに、整理し、目標を決めていく。

5. にも包括構築推進サポーターからの意見

- ・にも包括は、地域共生社会の実現を目指し、各自治体において、取り組んでいる。

- ・今までの精神の歴史の中で、偏見や精神障がいは別物という意識があったが、精神障がいに特化し、地域課題を考える時間を作ることが取り組みの基本だと考える。

- ・岐阜市は社会資源が豊富である。課題抽出から多くの人、様々な分野から意見を出し合うことができていることが強みである。

- ・事業化へ向けたベース作りを協働し検討できており、県内の取り組みを見ても、岐阜市はとても良い取り組みとなっている。

6. まとめ、今後の方針

- ・今回の会議やアンケートの意見は、要約し、ホームページに掲載していく。

- ・グループで出された意見を地域課題として整理し、今年度中に、課題の解決について考え、目標を設定。来年度、すでに実施している取り組みや課題解決に活用できそうな取り組みや事業など、現状を把握し整理する。各機関で実施できる具体的な取り組みについて検討という流れですすめていく。

- ・昨年度までの協議の場の成果である地域連携・交流の場は、参加者アンケート等の意見を取り入れ、次年度以降の実施を検討していく。

7. 当日の様子



8. 当日アンケートの結果

(1) 本日の専門部会（テーマ別分科会）について

良かった	… 56.7 %
概ね良かった	… 30.0 %
普通	… 13.3 %
あまり良くなかった	… 0 %
良くなかった	… 0 %

(2) 岐阜市における精神保健分野の概要、にも包括について

理解できた	… 34.5 %
概ね理解できた	… 58.6 %
普通	… 6.9 %
あまり理解できなかった	… 0 %
理解できなかった	… 0 %

(3) グループワークはいかがでしたか

良かった	… 46.7 %
概ね良かった	… 33.3 %
普通	… 16.7 %
あまり良くなかった	… 3.3 %
良くなかった	… 0 %

(3) の理由

- ・ ボトムアップのシステムが形成され、意見を聞くことができた。
- ・ 意見交換の時間が短く、語り合う場が限られていたため、深い議論ができなかった。
- ・ 偏見に関する考察や、現場による課題の捉え方の違いを理解する良い機会となった。
- ・ 多様な考えや意見が交わされ、異業種連携への期待が高まった。
- ・ 各所属の困りごとが明確になり、各機関の共通課題を再認識できた。

(4) 精神障がい（こころの健康課題も含む）に関する普及啓発について

①自機関・団体ですでに取り組んでいること

【病院】

- ・院内の精神科以外の科との連携

【訪問看護】

- ・スタッフのメンタルヘルス
- ・利用者に対して、看護師が啓発につながる言葉がけを行えるように取り組んでいる。

【相談支援事業者】

- ・利用者によりそう様に心がけている。
- ・支援員としての日々の関わり
- ・各相談窓口
- ・その人に合った機関や窓口に勧めること。かっこよく言えば、リファールすること

【関係機関・団体】

- ・地域の課題を理解するためにこの協議会に参加する。
- ・関係機関に出向き説明し、対象者の支援を通して理解してもらえよう働きかけを行う。
- ・精神疾患の方への対応等の研修会を協議会として行っている。
- ・障がいサービスから介護保険サービスへのスムーズな移行のための相談支援専門員と連携会議の開催。
- ・包括の職員研修で精神障がい者への対応方法を学んでいる。
- ・生活困窮の課題について、精神疾患に起因する為、生活課題をピックアップして、地域課題として反映できると思う。

【行政機関】

- ・地域で健康教育をする時に、精神の理解に関する話題を持つようにしている。
- ・相手が納得するまで話を聞く。
- ・関係機関に繋げる。
- ・機会をとらえて精神障がいについて情報提供を行う。
- ・サロンや産後の母親に対して、健康教育やメンタルチェック（こころの体温計）など、メンタルヘルスケアについて情報提供している。

②自機関・団体ですでに取り組めそうだと思うこと

【訪問看護】

- ・家族にとっての相談先がどこになるのかをお伝えする。
- ・アセスメント、契約時にご説明する。

【相談支援事業者】

- ・学習会
- ・ケースワークを通じて課題の抽出
- ・精神障がいの人の病気について世の中に知ってもらう。
- ・困りごとを把握していく。
- ・精神障がいの理解を深めていく。
- ・相談窓口を一本化し、どこに相談するのか不明でも相談しやすい環境を作る。
- ・福祉従事者としてではなく、自分も地域住民の1人として見た時に高齢者や障がい者に対して声が掛けられる。

【関係機関・団体】

- ・他機関と地域課題等について意見交換をする場を作っていく。

- ・民生委員へも理解を深めれるよう、包括支援センターと話し合う。
- ・取り組みそうだと思うことを実際にグループワークで取り入れるといい。

【行政機関】

- ・窓口連携会議での普及啓発
- ・精神障がい研修に参加し、所属部署で研修内容を共有する。
- ・相談場所の周知
- ・支援者側も本人の気持ちの波や状況に対応することに難しさを感じるため、支援者向けの研修に参加する。

(5) 精神保健分野の中で今後取り上げてほしいテーマ、内容があればご記入ください

【病院】

- ・普及、啓発について具体的な取り組みについて。

【訪問看護】

- ・小中学校でのメンタルヘルスについての教育状況。
- ・ご家族が居なくなった時の当事者がどのように生きていくのか？
- ・介護、医療分野の連携。困るのが、高齢者支援をした後の残された精神疾患の家族の行き先、対応方法なので、横の連携ができればいい。

【相談支援事業者】

- ・精神疾患に関する勉強会。病気になってどうリカバリしたかなど知識がないから教えてほしい、関わり方を教えてほしい。
- ・岐阜市に近いエリアでの取り組みを知りたい。

【関係機関・団体】

- ・入院生活からの地域移行というテーマが、にも包括に求められるならば、病院関係者（医師、ワーカー）を主とした話し合いが出来たらよい。

【行政機関】

- ・精神疾患の方への関わり方（家族や医師）について。

(6) その他ご意見や感想がありましたらぜひお聞かせください

【病院】

- ・いい集まりだと思います。今後も継続できるとよいと思います。ありがとうございました。

【訪問看護】

- ・普段、高齢者分野にしか携わっていないので、親と子供の問題など、課題が山積みのように感じました。

【相談支援事業者】

- ・小、中学生からの教育に関わっていきたい。
- ・時間がタイトだったので、もう少し考えたり、話し合える時間がほしかったです。
- ・過去に参加させてもらった協議会とは、雰囲気異なり新鮮で良かったです。

【関係機関・団体】

- ・このような機会を継続して、意見交換をいろんな立場の方としていけるとよいと感じた。

【行政機関】

- ・困り事は色々出てきたものの、普及啓発に関するものとして掘り下げて行く際、なかなか思うように進まず、ファシリテーターがとても大変そうに感じた。時間の制約もあり、終始駆け足で進んでいき、もう少し話せるといいと思った。また色んな困り事を出しながらも、5年度の普及啓発の困り事とリンクさせ、それだけを深掘りだけでも良かったかと感じた。